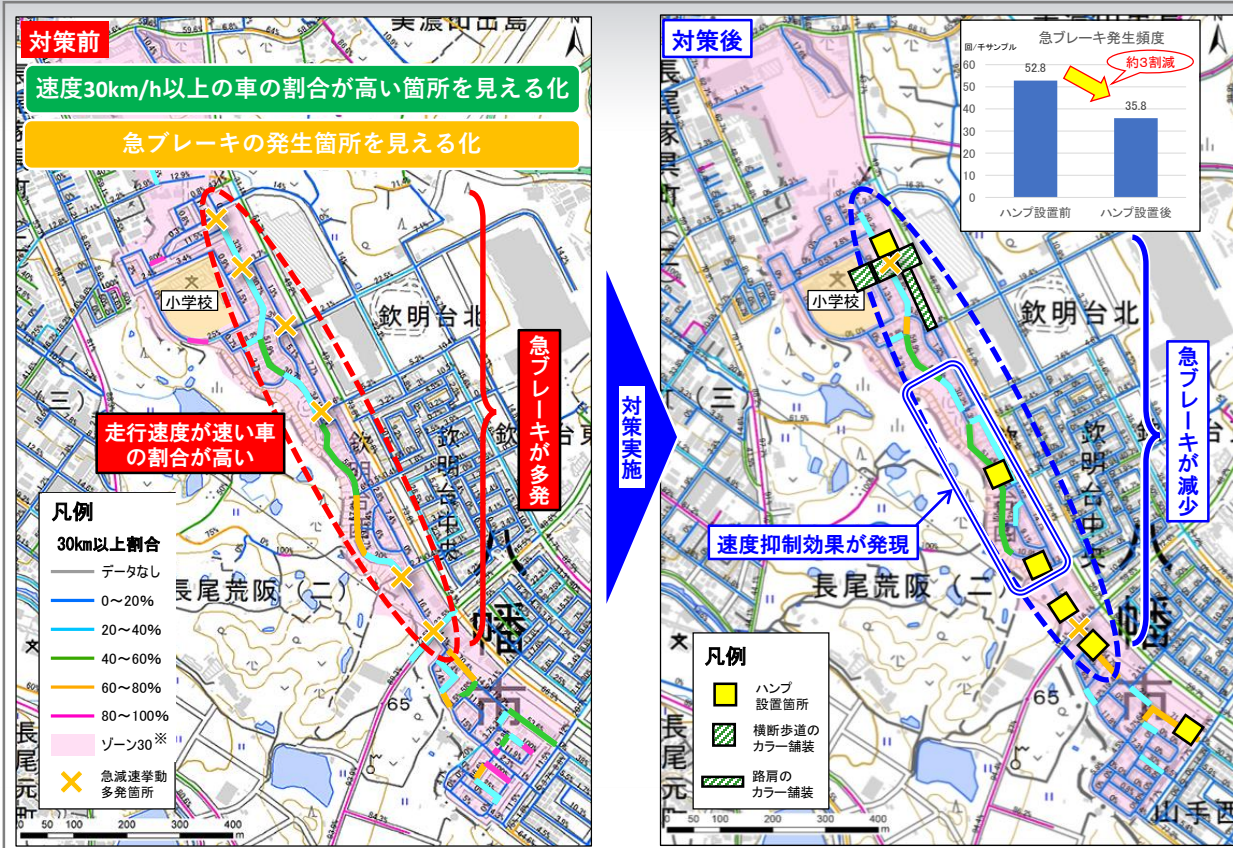


事後から予防的な交通安全対策への転換

「交通事故」は事故発生箇所に対する事後的な対策だけでなく、事故リスクがある箇所を把握し、予防的な対策を講じることが必要です。ITSスポットで常時計測された「速度データ」や「急加減速データ」は、生活道路において車の速度が速い箇所や急ブレーキが多く発生している箇所などの事故リスク箇所を容易に可視化できます。また、これらのデータは国や府県、市町村が管理する道路の別にかかわらず、面的に取得して活用することも可能です。これを用いることで学校等の周辺エリアについて、整備局で面的なデータ分析を行い、地域の交通安全対策を支援する取り組みを進めています。

事故リスクの分析・対策事例

京都府八幡市欽明台北地区



交通安全対策



【関連ページ】生活道路対策事例

※ゾーン30：最高速度30km/hの速度規制とその他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、速度や抜け道として通行する行為の抑制等を図る区域（ゾーン）を定めたもの